

第1回
(2012.10.1)

『大学図書館の機能と研究活動』

北村 由美 准教授 (附属図書館研究開発室)

第1回：講義

- ・場所：吉田南総合館 共東 31 (吉田南総合館 東棟 3階)
- ・出席者数：60名+職員4名
- ・配付物：PPT資料 (A4両面3枚)、授業スケジュール・構成(A4両面1枚)、担当者一覧(A4片面1枚)、アンケート(A4片面1枚)

***** 講義内容 *****

■ 本日の内容

- 大学での学習・研究に必要なこと→この科目で学ぶこと
- 大学図書館の役割

■ この科目の目的

- 膨大な情報群から効率よく検索し目的の情報に辿り着くためのスキル(情報リテラシー)の向上
- レポート・論文の執筆に必要なスキルとルールの習得

■ 大学での学習・研究に必要なこと

- 「独創的」といいますが…
 - ・ 研究の中で評価されるのは、独創的な研究と新しい研究。
 - ・ 「独創的」な研究論文やレポートが、100%新しい知識であることはない。
 - ・ 先行研究や社会・歴史などの文脈の中に位置付けることが重要。そうすることではじめて、研究結果やものの見方における「独創性」を説明することができる。
- そこで必要となるのが
 - ・ 専門分野における知識の体系的な理解。
 - ・ 図書館は、多数の図書があるだけでなく、知識が体系的に分類され提示されている珍しい場。
 - ・ この授業では図書館活用法に重点を置く。終盤には、引用方法や論文執筆手法にも触れたい。
- 残念ながら
 - ・ 知識の体系を作り維持しているのは、自分以外の他人。
 - ・ 他人が作った知識体系における分類やキーワードと、自分が考えるそれは異なる。
 - ・ 図書館内では、こうした知識体系が、1つではなく複層的に存在している。
- 学習・研究のポイント
 - ・ 様々な領域・トピックの中から、適切な領域・トピックを選択する。
 - ・ 領域・トピックにふさわしい情報源(根拠)を選択し、それに沿って自分の主張を組み立てる。
- 例：「食材のトレーサビリティをめぐる現状について」
 - ・ 情報工学なのか？食品産業なのか？→ 領域を選ばないと、異なる文献に辿り着いてしまう。
 - ・ トレーサビリティとは？最近の話題？技術・システムとその運営？可能性と課題？
→ トピックによって、辞書・事典類や新聞記事、専門書、学術論文等、必要な情報源が異なる。
- この科目で学ぶこと(1)：体系の理解 分類と目録
 - ・ この科目で学ぶ重要なことは、知識体系の理解。
 - ・ 「情報の整理や探索の基盤」としての分類。
 - ・ 分類に基づいた学問領域の上下関係・類縁関係。
 - ・ 図書館では、これらの関係が書架や目録に反映されているので分りやすい。
- この科目で学ぶこと(2)：用語と文献へのアクセス 参考資料(辞書・事典類などのツール)の使い方
 - ・ どのような文献にアクセスするか。
 - ・ 関連事項、横並びの概念。

- この科目で学ぶこと(3) : さまざまな「検索力」として応用 さまざまな「検索」とその留意点
 - ・ インターネットを含めたオンラインデータベースをどう選び、検索するか。検索結果は正しいか。
 - ・

■ 大学図書館の役割

- 図書館の種類の違いを認識すべし！
 - ・ 公共図書館と大学図書館で資料の種類・内容は異なる。
- 大学図書館での情報源の特徴
 - ・ 学術書・専門書が中心。
 - ・ 多様な形態・テーマ・言語の幅広い範囲の情報源を扱う。
 - ・ 電子的・ネットワーク上の情報源が多い。
 - ・ 活用のカギは、図書館という場、資料・サービスの特徴を掴み、目的に応じて使い分けること。
 - ・ 図書と学術雑誌・学術論文という媒体の違いを認識すること。
- 京大の図書館・室の特徴
 - ・ 附属図書館：主に、全学の3,4回生がターゲット
 - ・ 人環・総人図書館：全学の1,2回生・「人環」の院生・「総人」の学生がターゲット
 - ・ 各部局の図書館・室：部局の学生・院生・研究者がターゲット
 - ・ 京大全体での図書館・室の数：50以上
- 書架上の分類の役割
 - ・ 館内を歩けば、どのような資料があるか、把握することができる。
 - ・ 館の特性に応じ、資料の特性が出る。
 - ・ 図書館は、点ではなく、面に広がる。図書館内徘徊を推奨！
 - ・ 殆どの図書館・室は、その図書館・室の所属でなくても利用することができる。
 - ・ 所属の図書館・室がホームライブラリーだが、研究の進め方によっては、他図書館・室がホームライブラリーになる可能性もある。徘徊して、自分のホームライブラリーを見つけること。
- 相互利用による、図書館活用の向上
 - ・ 資料を見つけるスキルが重要。
 - ・ 発見できれば、多くの場合、京大や他大学等でアクセス可能。
 - ・ KULINEの「他大学検索」の活用。
- 大学図書館での主な情報源の区分
 - ◇ 雑誌
 - ・ 学術雑誌は一般の雑誌とは異なる！
 - ◇ 学術雑誌の中の論文の重要性
 - ・ 最新の研究成果が論文として現れる。
 - ・ 引用されることの多い論文が重要とされる。
 - ・ 雑誌の中の論文をいかに探し出すか、が大事なスキル。
 - ◇ 電子ジャーナル(EJ)・データベース(DB)
 - ・ 「商品」として大学が契約。
 - ・ 京大では「ECS-ID」の取得がこれらの利用に必要。
 - ◇ ネット上の情報は「目に見えない」
 - ・ 図書館は全体を見渡すことができ、体で分かるということが重要。
 - ・ 一方、インターネットは全体を見渡すことができず、またパーソナライズが進んでいるため、自分が見たいような情報しか入ってこない可能性もある。
 - ◇ 図書館資料とDB・EJへの入口
 - ・ KULINE
 - ・ 図書館機構ウェブサイト
- まとめ
 - ・ 大学での学習・研究のポイントは、専門分野の知識体系を理解した上で「適切な領域・トピック」「適切な情報源」を選択すること
 - ・ これらを助けるための図書館の機能

■ 授業を進める上での注意点など

- 「情報探索入門」の授業用ページの案内 (図書館機構トップページの右下より)
http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content_id=3
- 参考書『大学生と「情報の活用」』の案内
http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content_id=22 (学内限定)
- 関連文献
 - ・ 小山田耕二, 日置尋久, 古賀崇, 持本江津子. 研究ベース学習. コロナ社, 2011.
 - ・ 井上真琴. 図書館に訊け!. 筑摩書房, 2004. (ちくま新書 486)
- その他の連絡事項
 - ・ 期限内に履修登録を行うこと
 - ・ 教室に注意(講義=共東 31 / 演習=メディアセンター南館 203・204 / ただし「参考」は例外)
 - ・ 演習までに ECD-ID を取得し、自分の ID・PW と覚えておくこと
 - ・ 授業用ページと Twitter (@ku_tansaku) 開始のお知らせ
 - ・ アンケート記入と提出のお願い

(記録: 梶谷 春佳)